

(大正五年四月六日第三種郵便物認可) 昭和十三年一月廿五日印刷納本(毎月一回一日發行)

# 哲 學 研 究

冊二第 卷三十二 第 13. 2. 4. 號三十六百二第

行發日一月二年三十和昭



宗教的自覺(承前) .....

文學士 片山正直

現實存在の根據としての空 .....

文學士 向田永靜

主體の哲學と倫理の問題(中) .....

文學士 柳田謙十郎

京 都 帝 國 大 學 文 學 部  
京 都 哲 學 會



## 前號「デカルトに於ける延長」正誤表

頁	行	誤	正
五	九	受とることであり	受とることもあり
一四	八	微積方法	微積分法
一七	七	But	削除
二五	一六	實在的傾向	實在論的傾向
二九	一六	しかやうな	しかしかやうな
三四	六	精察に考査	精細に考査
三五	四	哲學者だけが	哲學者たちが
五一	一一	最近存在	最高存在

## 前號目次

デカルトに於ける延長	………	文學士 三宅剛一
主體の哲學と倫理の問題(上)	………	文學士 柳田謙十郎
相對性理論をめぐる認識論的諸問題(承前)	………	文學士 近藤洋逸

告 會

- 一、本會へ入會希望者ハ京都市西洞院七條南内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 一、會員ニシテ轉居入退會等(編輯事務以外ノ一切)ノ事務ハ内外出版印刷株式會社内京都哲學會へ御通知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪三〇六六三番 内外出版印刷株式會社内京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、前金切レノ場合ハ帶封ニ(前金切)ノ印章捺捺致スベキニ付直ニ御拂込下サレ度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學  
文學部内 京都哲學會

定 規 文 註

- ◆ 會員にあらざる購讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版印刷株式會社へ御申込下され度候
- ◆ 本誌の御註文はすべて代金郵税共前金にて御送り下され度候
- ◆ 振替貯金にて御送金の際は(振替京都三九三一番大阪三九三一番東京三九三一番) 内外出版印刷株式會社宛に願上候
- ◆ 特に請求書及領收書等を要する場合ハ郵券參錢御送付下され度候

價 定

冊	冊	冊	冊	冊
一	六	十二	冊(前金)	冊(前金)
冊	冊	冊	冊	冊
金四拾五錢	金貳圓七拾錢	金五圓四拾錢	金貳圓七拾錢	金貳圓七拾錢
金壹錢五厘	不申	不申	不申	不申
五厘	受	受	受	受

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

昭和十三年一月廿五日印刷納本  
昭和十三年二月一日發行 第二百六十三號 第二十三卷  
第二册

京都帝國大學文學部内

不許複製  
禁轉載

- 編輯者 京都哲學會
- 右代表者 服部英次郎
- 發行者 須磨勘兵衛
- 印刷者 須磨勘兵衛
- 印刷所 須磨勘兵衛

發行所

京都市下京區西洞院七條南

内外出版印刷株式會社

振替口座 京都三九三一番  
大阪三九三一番  
東京三九三一番

本社 京都市下京區西洞院通七條南入 内外出版印刷株式會社

賣捌所

- (東京) 寶文館 東海堂
- (大阪) 寶文館 上田屋
- (神戸) 寶文館 盛文館
- (京都) 寶文館 大瀨書店 參文社

# カント人間學

坂田德男 譯

菊判縦組五五〇頁  
クローズ裝上製函入  
定價三・八〇送料・三三

## 新刊

「厭ふべきもの、それは自我」と云はれる。その性悪しく、いと卑しきものを包むところのものは「人間」である。しかも高きもの、いと美しきものがそれを透すことなくしては實現せられないのも亦人間である。近世の思惟様式を革命した大哲カントの眼に「人間」の姿が如何に映り、彼によつて如何なる規定と未來への展望が興へられたか。實に本書はカントが八十年の生涯を感性界の逍遙に、人間生活の卑しきもの、微かなるものから限りなく遙かな人類の未來をも視野の裡に收め、理性の炬火で汎ゆる事象を照しつつ歩いた、その人生行路の貴重なる報告の書であり、後れ來たる人類を高所に導く教訓の書である。精妙にして魅力と光彩に富み、鋭俊なる觀察は隨所に機智と皮肉を交へ、晦澁と稱せられる彼の理説に比して遙かに親しみ易い本書は、彼の著作中最も一般的興味を唆るものである。此の邦譯の完成によつて大哲カントは更に新なる吟味と考量とを拂はれるであらう。

## カント書簡集

篠田英雄 譯

菊判七八二頁  
クローズ裝函入  
定價五・八〇  
送料・三三

(大正五年四月六日)昭和十二年一月廿五日印刷納本(毎月一回)  
第三種郵便物認可(昭和十三年二月一日發)行(一日發行)

哲學研究 第二百六十三號 定價金四拾五錢 郵税金壹錢

東京 神田 岩波書店 振替 東京 〇四二六二